

(Ref S11)



### (ChatGPTへの質問)

英国では2023年11月からETA Electronic Travel Authorisation 事前渡航認証制度が、そして2025年1月からeVisa制度が本格的に運用が始まりました。しかし、有る日本人女性は、英国のILR Indefinite Leave to Remain を所持しており、しかしeVisaは持っていないのにも関わらず、海外から英国に10回以上再入国する際、過去にeGateで何の問題も無く通過出来ているとのことです。その人はeVisaもETAも無く、3冊前の古いパスポートにILRのスタンプが押されているのですが、どうやって英国はその人のVisaステータスを確認しているのですか？

### (ChatGPTからの回答)

とても良いポイントに気付いています。結論から言うと、その人がeVisaもETAも持っていないのにeGateを通過出来る理由は、英国はeVisaだけで在留資格を管理している訳ではなく、複数のバックエンド・データベースを横断的に照合しているからです。以下、仕組みを順に説明します。

#### 結論の要点（先にまとめ）

- \* ILR (Indefinite Leave to Remain) は英国政府の中核データベースに恒久的に記録されている
- \* eGateではパスポート番号+生体情報（顔）を基に自動照合
- \* 古いパスポートにILRスタンプがあっても、過去のパスポート履歴と現在のパスポートが紐づけられている
- \* eVisaは可視化・オンライン証明の為の制度であり、在留資格そのものではない

英国はどうやってビザステータスを確認しているのか？

1) 中核はHome Officeの移民データベース

英国の移民管理は、UK Home Officeが管理する中央移民データベースが本体です。

ここには：

- \* ILR付与時の記録
- \* 申請時の氏名・生年月日
- \* 顔写真（生体情報）
- \* これまで使用した全てのパスポート番号

が保存されています。ILRはスタンプではなくデータベース上の権利です。

## 2) eGate で実際に行われている照合

eGate では、次の処理がほぼ瞬時に行われています：

- \* 現在のパスポートをスキャン
- \* IC チップ内の顔画像を取得
- \* Home Office のデータベースと照合

以下を確認：

- \* この人物は誰か？
- \* 過去にどんな在留資格を持っていたか？
- \* 現在も有効な永住権 (ILR) があるか？

ここで ILR 保持者として一致すれば、eVisa や ETA の有無は問われません。

## 3) 古いパスポートの ILR スタンプが効いている理由

ポイントはここです。ILR スタンプが押された時点で

- \* その情報は既にデータベースに登録済み

その後、パスポートを更新しても、新旧パスポート番号・顔写真・氏名・生年月日が照合され、同一人物としてリンクされます。つまり、古いパスポートにしか ILR が無いのではなく、ILR は人に付与されており、パスポートは識別キーの一つに過ぎないという扱いです。

## 4) eVisa・ETA との関係

eVisa とは？

- \* 在留資格をオンラインで証明する為の仕組み
- \* 雇用主・大家・航空会社向け
- \* eGate 通過の必須条件ではない

ETA とは？

- \* ビザ免除国向けの事前渡航認証
- \* そもそも ILR 保持者は ETA 対象外

よって、その人が eVisa も ETA も不要なのは制度上まったく正しいです。

## 5) なぜ英国再入国時に eGate で問題なく通れる人と止められる人がいるのか？

以下の場合は eGate で弾かれやすくなります。

- \* 氏名変更（結婚など）を届け出ていない
- \* 生体情報が古すぎる・一致しない
- \* 非常に古い記録でデータが未統合

\*一度も新パスポートで英国入国履歴がない

この場合のみ、eVisaへの移行・UKVIアカウント作成を求められます。

## 6) まとめ

英国はeVisaだけで在留資格を判断している訳ではない

\* ILRはHome Officeの中央データベースで恒久管理

\* eGateはパスポート+顔認証で直接そのデータベースを参照

\* eVisaは見せる為の証明書、ILRは国家記録上の権利